



ご当地 **よ坊さん** 茨城

# 茨 歯 会 報

No.589

茨城県歯科医師会  
Ibaraki Dental Association

July  
2018  
平成30年

7



## Contents

|            |    |
|------------|----|
| デンタルアイ     | 1  |
| 千葉 順一      |    |
| 理事会報告      | 4  |
| 会務日誌       | 6  |
| 地域保健委員会だより | 8  |
| 厚生委員会だより   | 14 |
| センターだより    | 16 |
| 専門学校だより    | 19 |
| 寄稿         | 20 |
| 荻野 義重      |    |

### 表紙写真について

#### 水郷潮来あやめ祭

江戸開幕に伴う利根川東遷（付け替え）は潮来を水郷の郷に変え、水運の要所となり栄えました。あやめ祭りは400種100万株と言われるあやめの花の鑑賞ばかりでなく、ろ舟（サツパ舟）・遊覧嫁入り舟などが楽しめます。

（社）珂北歯科医師会 柴岡 永子

# DENTAL eye

## 日本学校歯科医会 「生涯研修制度」について



理事  
千葉 順一

日頃から会員の先生方には学校歯科保健活動にご尽力・ご協力いただき、誠にありがとうございます。この季節、学校保健計画においては毎年 定期健康診断の時期となります。学校保健施行規則により、毎年6月30日までにを行うものとされていますので、学校歯科医の先生方は健康診断をほぼ終了されていることと思います。また、その健診結果の通知は健診後21日以内に発行されますので、幼児、児童・生徒のかかりつけ歯科医の先生方は、今後の事後措置や指導等のご協力をよろしくお願いいたします。

現在の学校歯科保健は、疾病重視の保健管理から、歯・口の健康づくりを基本に、生活習慣の確立を図り生涯を通じて「生きる力」の育成を目指す保健教育が主体となっています。すなわち、家庭における健康観察を踏まえ、学校生活を送るにあたり支障があるかどうかについて疾病をスクリーニングし健康状態を把握するという役割と、健康課題を明らかにし子供の自己管理能力を育て健康教育に役立てるという2つの役割があります。

それらを達成するためには、学校歯科医は歯科医師としての専門性を活かしながら教育者としての資質を備え、積極的に学校歯科保健活動を推進する必要があることから、日本学校歯科

医会（以下、日学歯）では、生涯にわたってその資質の向上を図ることを目的に、平成21年4月より基礎研修を、さらに平成25年度からはより実践的な専門研修を実施しています。

基礎研修の主催は日学歯および加盟団体であり、本会でも日学歯との併催で毎年（1月から3月ごろ）会員の先生方を対象に基礎研修を開催し、基礎研修修了証を発行していますが、平成29年度に、基礎研修修了証の有効期間が変更され、また新たに更新研修が設けられるなど、日学歯生涯研修制度にいくつかの変更点（以下※1. ※2. ※3.）がありましたので、それらの概要を踏まえ、それぞれの研修内容について説明させていただきます。

### 基礎研修

主 催：日本学校歯科医会および加盟団体

受講資格：①日学歯正会員

②加盟団体が推薦する者

③日学歯理事会で承認を得た者

研修内容：「保健概念」「保健教育」「保健管理」「組織活動」に関する講義を受講し、基礎的事項について研修する。

修了者：受講修了した正会員には「基礎研

修了証」を交付し、本人承諾のもと日学歯ホームページで氏名を公開する。

有効期間：基礎研修修了証の有効期限は修了年度から10年間とする。

- ※1. 当初より有効期間は受講した翌年度から7年間であったが、平成29年度から10年間とする。学習指導要項等の見直しがほぼ10年に1回行われることに合わせ、基礎研修を更新する先生は有効期間内に新設の更新研修を受講する。
- ※2. 受講履歴は、日学歯HP>会員のみなさま>受講年度検索システムで、氏名を入力すると検索できます（「会員のみなさま」はユーザー名とパスワードが必要です。ご不明の先生は日学歯へお問合せください。日学歯TEL：03-3263-9330）。

### 更新研修

主 催：日本学校歯科医会および加盟団体

受講資格：①基礎研修を修了した正会員

②加盟団体が推薦する者

③日学歯理事会で承認を得た者

研修内容：学校歯科保健に関する新たな事柄や各種法令などに基づく変更点について研修する。

修了証明：受講修了した正会員には「更新研修修了証」を交付し、本人承諾のもと日学歯ホームページで氏名を公開する。

有効期間：更新研修修了証の有効期限は修了年度から10年間とする。

- ※3. 平成29年に限り基礎研修会の受講をもって更新研修修了としましたが、平

成30年度からは基礎研修と別開催となる予定です。まだ不確定な部分も多いため、今後の予定については決まり次第別途ご案内させていただきます。

### 専門研修

主 催：日本学校歯科医会

受講資格：基礎研修または更新研修を修了した日学歯正会員

研修内容：自身の実践活動をより充実させるとともに、地域での学校歯科保健を推進、指導する役割を担うことができる資質を身に付けることを目的に「保健教育」「保健管理」「組織活動」の3領域に関する講義・ワークショップ等、より実践的な内容について研修する。

修了者：受講修了者には、受講領域ごとに「専門研修領域別受講修了証」を交付する。基礎研修または更新研修有効期間内に3領域すべての受講を終了した者には「生涯研修登録学校歯科医証」を交付し、希望者には有料で「携帯用生涯研修登録学校医証」を交付する。

有効期間：生涯研修登録学校歯科医証の有効期限は修了年度から10年間とする。

本年度の専門研修は、4月24日付 茨歯発第60号で案内しています。各3領域の研修会はそれぞれ申し込み期間、開催日が異なりますので、日学歯HPで確認の上、日学歯へ直接お申し込みください。

日本学校歯科医会は、学校歯科医を主たる会員とし、幼児、児童生徒の歯科保健向上を目指

して昭和7年に組織され、全国約24,000名が所属する学校歯科保健に関わる専門団体です。本会の学校歯科医の先生方も多数入会されていますが、日学歯未入会の学校歯科医の先生方もまだまだいらっしゃいます。

平成26年には学校保健安全施行規則が一部改正され、平成27年には「学校歯科医の活動指針平成27年改訂版」が発行され、以降の基礎研修会は、これらの内容に重点が置かれていますので、日学歯未入会の学校歯科医の先生方には、是非とも入会（本会事務局を通してお申し込みください。茨歯会事務局TEL：029-52-2561）され、既に日学歯会員の先生方々ともども、基礎研修会へのご参加をお願いいたします。

また、既に基礎研修を受講の先生方も更新研修、専門研修へのご参加のご検討をお願いいたします。

学校保健の健康課題としては、近年、基本的な生活習慣の確立、がん教育、性に関する指導、心肺蘇生法、薬物乱用防止教育、アレルギー疾患への対応、食育の推進、学校教職員ストレスチェック事業などが主体となっています。この中で歯科保健は、実際に口の中が確認でき子どもが変化を理解しやすい特徴があり、食育を含めた自己管理能力・基礎生活習慣の確立などの健康教育に重要な役割を果たします。

また、糖尿病などの生活習慣病や健康寿命と、歯科疾患・口腔機能との関連性のエビデンスが確立されつつある現在、学童期から各年齢のライフステージに沿った健康管理、健康教育が重要です。

学校歯科医、かかりつけ歯科医の先生方の学校歯科保健活動へのご協力を重ねてお願い申し上げます。

## 株式会社岩瀬歯科商会

昭和の幕開けと共に栃木県で創業した弊社は、今年で90年目を迎えます。皆様方への感謝を忘れず、未来を見据えた歯科ディーラー像を創造して参ります。

### イワセオリジナルユニット SIGNO NEXT

こだわりと好みをひとつずつ反映しながら、ワンランク上のラグジュアリー空間と心地よさを演出します。

■ 総代理店 株式会社岩瀬  
■ 代表取締役 岩瀬 浩二  
■ 代表取締役 岩瀬 浩二  
■ 代表取締役 岩瀬 浩二

製造販売・製造  
株式会社モリタ製作所

発売  
株式会社モリタ

本社〒320-0811 栃木県宇都宮市中央区上落合2-1-24 TEL.048-552-1315 大阪本社 大阪府吹田市豊水區3-33-18 TEL.06-6380-2525  
伊東工場 埼玉県北足立郡伊東町小室7129 TEL.048-723-2621 東京本社 東京都台東区上野2-11-18 TEL.03-3834-6161



#### 事業所案内

|          |                     |                      |
|----------|---------------------|----------------------|
| 本社       | 台東区台東2-23-7         | TEL.03-3832-8241     |
| 宇都宮支店    | 宇都宮市平出工業団地37-6      | TEL.028-613-5858     |
| 水戸支店     | 水戸市白梅2-8-18         | TEL.029-225-6543     |
| 松戸支店     | 松戸市幸谷観音下159-1       | TEL.047-345-3131     |
| 千葉支店     | 千葉市中央区浜野町879-1      | TEL.043-305-1182     |
| 上野支店     | 台東区台東2-23-7         | TEL.03-3832-8241     |
| 古河支店     | 古河市下山町9-60          | TEL.0280-30-1582     |
| 福島支店     | 福島市鎌田字卸町4-1         | TEL.024-552-1161     |
| 世田谷支店    | 世田谷区玉川台2-11-17-101  | TEL.03-5491-7595     |
| 練馬営業所    | 練馬区豊玉北4-14-11       | TEL.03-5912-1180     |
| 横浜支店     | 横浜市栄区小菅ヶ谷1-28-9-101 | TEL.045-895-3808     |
| 5月GW明け以降 | 横浜市磯子区中原2-1-19      | NEW TEL.045-770-4182 |
| 前橋支店     | 前橋市紅雲町1-22-2        | TEL.027-243-8241     |
| 5月GW明け以降 | 高崎市京目町176-2         | NEW TEL.027-350-8241 |
| 厚木支店     | 厚木市酒井2087-14        | TEL.046-228-5550     |
| 大宮支店     | さいたま市見沼区東大宮7-41-1   | TEL.048-688-1740     |
| 盛岡支店     | 盛岡市上堂1-6-5          | TEL.019-648-2777     |
| 東大和支店    | 東大和市立野3-640-1       | TEL.042-590-5770     |

# 理事会報告

## 第2回理事会

日 時 平成30年5月17日（木）4時

場 所 茨城県歯科医師会館 会議室

報告者 増本章典

広報委員会：茨歯会報の入稿を20日厳守と  
することの確認  
専門学校

### 1. 開 会

### 2. 会長挨拶

### 3. 監査報告

### 4. 報 告

#### (1) 一般会務報告

#### (2) 【県医師会】生活習慣病予防対策推進事業

中央地区健康

フォーラムの後援について

例年通り後援することとした。

#### (3) 開業予定の歯科医院について

#### (4) 疾病共済の支払いについて

日立地区 1名 23日

つくば地区 1名 19日、31日、74日

鹿行地区 1名 15日

県南地区 1名 117日

西南地区 1名 27日、31日

#### (5) 睡眠時無呼吸症地区連絡役の決定状況

#### (6) フッ化物洗口出張説明会

#### (7) 委員会報告

医療管理委員会：関東信越国税局管内税務  
指導者協議会日程について

## 5. 協議事項

### (1) 入会申込みの受理について

柳田 佳代子 先生 東西茨城地区

1種 日歯大卒 承認

布瀬川 明博 先生 鹿行地区

1種 日大松戸卒 承認

鈴木 崇嗣 先生 土浦石岡地区

2種 東北大歯卒 承認

今村 由紀 先生 つくば地区

1種 医歯大卒 承認

小林 孝誌 先生 つくば地区

1種 東歯大卒 承認

大谷津 幸生 先生 県西地区

2種 日歯大卒 承認

### (2) 第165回定時代議員会について

承認

### (3) 平成29年度備品の廃棄処分について

承認

### (4) 平成29年度茨城県心身障害者（児）歯科診療所運営費補助金実績報告書（案）について

承認

### (5) 睡眠時無呼吸症医科歯科連携登録内容の確

認

承認

- (6) 災害共済（見舞金）の扱いに関する細則の  
変更案  
継続審議
- (7) 1種会員の子息等が施設の管理者となる場  
合の入会扱いについての規程の再校  
その都度理事会で決定し、事例を事務局に  
て保管することで承認
- (8) 福井国体視察（委員派遣）について  
承認
- (9) スポーツデンティスト（IBSD）ユニ  
フォームについて  
継続審議
- (10) その他  
○行事予定について  
平成30年5月19日（土）第18回日本ス  
ポーツ・健康づくり歯学協議会  
平成30年6月7日（木）第3回理事会  
平成30年6月21日（木）第165回定時代議  
員会

# 会務日誌

- 5月17日 第1回備品・消耗品監査を執行。土浦センターと茨歯会館にて、土地、建物、備品、消耗品の管理保管並びに整備状況について監査を行った。  
出席者 鈴木監事ほか7名
- 5月17日 第1回業務会計監査を執行。業務並びに制度に関する監査（2月1日～3月31日）、会計に関する監査（平成29年度収支決算）を行った。  
出席者 鈴木監事ほか7名
- 5月17日 第2回理事会を開催。入会申込みの受理、第163回定時代議員会、平成29年度備品の廃棄処分、平成29年度心身障害者（児）歯科診療所運営費補助金実績報告書（案）、睡眠時無呼吸症医科歯科連携登録内容の確認、災害共済（見舞金）の扱いに関する細則の変更案、1種会員の子息等が施設の管理者となる場合の入会扱いについての規程の再校、福井国体視察（委員派遣）、スポーツデンティスト（IBSD）ユニフォームについて協議を行った。  
出席者 森永会長ほか17名
- 5月17日 県学校保健会理事会が県メディカルセンターにて開催され、平成29年度事業報告並びに決算報告ほかについて協議が行われた。  
出席者 森永学校保健会副会長ほか3名
- 5月17日 第1回茨城型地域包括ケアシステム推進センター運営協議会が県医師会にて開催された。  
出席者 森永会長
- 5月19日 日本スポーツ・健康づくり歯学協議会を当番県として「ホテルレイクビュー水戸」にて開催。平成29年度事業報告、歯学協議会役員などの報告、日本スポーツ・健康づくり歯学協議会の後の在り方について協議を行った後、日本大学松戸歯学部特任教授の川良美佐雄先生が「日本スポーツ界への貢献を考える」をテーマに講演された。  
参加者 81名
- 5月20日 日本スポーツ歯科医学会認定マウスガード講習会を開催。かながわスポーツ・健康づくり歯学協議会の先生方を講師としてお招きし、マルチレイヤーマウスガードの製作実習を行った。  
受講者 21名
- 5月21日 第2回県保健所再編検討懇話会が県総合福祉会館にて開催され、具体的な在り方、実施時期について協議が行われた。  
出席者 森永会長
- 5月24日 日歯認定歯科助手講習会の第1回目を開催。開講式の後、「歯科助手の心得」の講義が行われ、その後「一般教養」についてマナー講師の中村八恵子先生が講義された。  
受講者 49名
- 5月24日 第1回医療管理委員会を開催。歯科衛生士復職講習会、スタッフセミナー、後継者のいな

い歯科医院の斡旋事業について協議を行った。

出席者 大字医療管理部長ほか10名

5月24日 新規指定・指定更新集団指導が県民文化センター小ホールにて開催された。

対象医療機関数 202

5月24日 第2回広報委員会を開催。会報6月号の校正、会報7月号の編集について協議を行った。

出席者 柴岡広報部長ほか6名

5月25日 都道府県会長会議が日歯会館にて開催され、時局問題について協議を行った。

出席者 森永会長

5月25日 第1回オープンキャンパスを実施。歯科衛生士科に22名、歯科技工士科に5名の参加があった。

5月25日 関東信越厚生局地方社会保険医療協議会に関する連絡協議会が東京都歯科医師会会議室にて開催され、各提出協議題について協議が行われた。

出席者 榊常務

5月25日 茨城をたべよう運動推進協議会がホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸にて開催された。

出席者 藤田

5月29日 県栄養士会定時総会が県民文化センターにて開催された。

出席者 黒澤副会長

5月29日 第1回日学歯予算決算特別委員会が日歯会館にて開催された。

出席者 森永日学歯総会議長

5月30日 第2回日歯予算決算特別委員会が日歯会館にて開催され、第188回定時代議員会提出議案の審査ほかについて協議が行われた。

出席者 征矢日歯予算決算特別委員ほか1名

5月31日 関東地区歯科医師会会長・専務理事・事務局長会議が日歯会館にて開催され、平成30年度関東地区歯科医師会関係諸会議の開催計画ほかについて協議が行われた。

出席者 森永会長ほか2名

6月 1日 第3回日歯議事運営特別委員会が日歯会館にて開催され、第188回定時代議員会の議事運営ほかについて協議が行われた。

出席者 森永日歯代議員会副議長

6月 3日 恒例の春のテニス大会が霞ヶ浦総合運動公園水郷テニスコートにて開催された。

参加者 16名

6月 4日 茨城政経懇話会6月例会がホテル テラス ザ ガーデン 水戸にて開催された。

出席者 森永会長

6月 5日 日歯予算決算特別委員会第2回小委員会が日歯会館にて開催され、報告書の作成について協議が行われた。

出席者 征矢日歯予算決算特別委員

6月 6日 第1回ケアプラン適正化検証委員会がホテルレイクビュー水戸にて開催され、本県におけるケアマネジメントの現状・課題ほかについて協議が行われた。

出席者 小野寺理事

## 日本歯科医師会公開フォーラム 「多職種による母子保健の推進～歯科からの提案～」 に参加して

地域保健担当理事 北見 英理

平成30年5月20日（日）日本歯科医師会館にて行われた標記の公開フォーラムに参加しましたので報告いたします。

### ◎特別講演

演題：親子関係と子ども虐待

講師：国立成育医療研究センター

こころの診療部部長 奥山真紀子先生

- ・日本にはまだ懲戒権があり、法務省が一部の体罰を含むとしている。体罰が子の利益になることはなく、体罰以外で躾は可能である。
- ➡パンフレット（子どもを健やかに育てるために～愛の鞭ゼロ作戦～）を紹介
- ・逆境的小児期体験（ACEs）によって、寿命が20年近く短いという論文もある。
- ・ルーマニアの「チャウシェスクの子どもたち」を紹介
- ➡60年代から80年代末にかけて、共産党のチャウシェスクによる独裁政権下で行われた「産めよ殖やせよ」政策。
- ・アタッチメントとは  
もともと発達心理学という心理学の学問領域における専門用語で、イギリスの児童精神医学者ジョン・ボウルビーが、1960年代に

「アタッチメント理論（愛着理論）」として提唱した。 ➡ 詳細の説明があった。子育ては、『いかにして良いアタッチメントを築くか』に尽きる。

### ・子ども虐待の予防

①全体の予防 ②妊娠期からの予防 ③リスクのある親、家族への支援 ④早期発見、早期支援 ⑤在宅支援 ⑥分離時の支援

### ・リプロダクションサイクルについて

国立成育医療研究センターは受精・妊娠に始まり、胎児期、新生児期、乳児期、学童期、思春期を経て次世代を育成する成人期へと至るリプロダクションによってつながれたライフサイクルに生じる疾患（成育疾患）に関する医療（成育医療）と研究を推進するために設立された。 ➡ 詳細はHP参照

### ◎基調講演

演題：子育て期における医科歯科連携について

講師：大阪府立病院機構 大阪母子医療センター  
母子保健情報センター 顧問／母子保健推進会議 会長 佐藤拓代先生

### ・子どもを育てるとのこと

出てきた花芽を摘むのではなく、むりやり

伸ばすのでもなく、ほどほどの子育て“good enough”で、持って生まれた力を存分に発揮できる子育てを、親の当事者責任ではなく、社会が行う必要がある。

#### ・母子保健の現状

平成28年に母子保健法改正で位置づけられた子育て世代包括支援センター（法律上は母子健康包括支援センター）（資料1）は、自治体が設置し平成32年度末までの全国展開を目指している（参考例として、フィンランドのネウボラを紹介）。



・医科歯科の連携が求められるのは、生活そのものの問題、子育ての問題が把握されたときの連携である。乳歯のむし歯が放置されている事例では、自主的に歯科に連れてくることはない。医科で何らかの疾患で口腔内の問題が把握され、歯科に紹介受診するときに、子どもに関心が薄く自分のことだけで精一杯の貧困やネグレクトの場合には、親に対しては連れてきたことをほめる、子どもに対してはよく頑張ったねとほめることであり、「どうしてこんなになるまでほって置いたのか」と問い詰めることは百害あって一利もない。

#### ◎講演 I

演題：口腔機能発達評価マニュアルについて

講師：日本小児歯科学会理事長／神奈川県大学小児歯科学分野 教授 木本茂成先生

・口腔機能発達評価マニュアルは、ダウンロードしてください。

・口腔機能発達不全症や口腔機能低下症については、日本歯科医学会HPを参照。

・食の問題の要因別アプローチ

①歯列咬合に問題があり、咀嚼機能の障害を生じているケース

➡歯科治療による改善（歯科医師）

②歯列咬合に問題はないが、摂食嚥下機能に障害のあるケース

➡摂食嚥下指導による改善（歯科医師、歯科衛生士など）

③咀嚼機能や嚥下機能に障害はないが、食行動や食習慣に問題のあるケース

➡保育士、養護教諭、教員・・・

④成長に即した栄養や食品の調理などについて、保護者に対する支援が必要なケース

➡栄養士、調理師・・・

地域に密着した生活の場で改善を図るため、行政、学校、幼稚園、保育所などで、保護者を中心とした子育ての支援が必要とされる。

・結びとして

①健康長寿社会の実現に向けて成長発達期の口腔機能の育成が、重要な鍵となる。

②歯科医師が子どもの食の支援者となるには、歯科医師自身が摂食機能向上の担い手であることを、広く国民に啓発する必要がある。

③子どもの口腔機能の発達と歯列咬合の育成は表裏一体であり、食生活全般の支援を行う多職種による連携体制が必要である。

④保護者が抱えている子どもに関する問題を多角的に捉え、的確な支援を行うため、子育ての支援者となる多職種が連携すること

が重要である。

◎講演Ⅱ

演題：多摩地区の地域連携例（在宅療養児）について

講師：日本歯科大学 口腔リハビリテーション  
多摩クリニック

口腔リハビリテーション科長

田村文誉先生

- ・医科においては、重度の医療的ケアを要する小児等の在宅医療の推進が急速になされている。多摩地区では、「東京療育ネットワーク」が立ち上がっている。
- ・歯科においては、在宅療養している子どもたち（障害児、有病児）のほとんどが、口腔ケアや摂食機能療法等の医療を必要としているにもかかわらず、歯科的支援に繋がっていない。
- ・2015年1月「多摩小児在宅歯科医療連携ネット」（たましょうしネット）を立ち上げた（HP参照）。
- ・地域の歯科医院では口腔内診査やスクリーニングを行い、疾患があった場合、地域の後方支援病院の歯科に依頼する。治療後は地域の歯科医院でメンテナンスや予防に努める。このような連携ネットワークが必要と思われる。
- ・重症児の診療は極めて困難で、歯石除去であっても誤嚥につながることも危惧され、医療事故を起こさないためにも医科との連携は不可欠である。

◎講演Ⅲ

演題：保健所における子どもの支援～多職種連携の観点から～

講師：荒川区 健康部長／保健所長 倉橋俊至先生

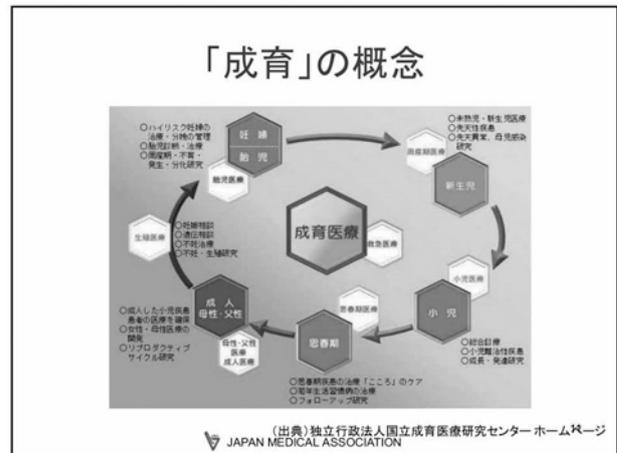
- ・荒川区の概要と保健活動
- ・事例紹介

- i) 定期的な歯科検診が支援の機会となっている母子の例
- ii) 歯科医療機関が母のリストカットに気づいた例 など

◎パネルディスカッション

①日本医師会 常任理事 温泉川梅代先生  
・ 成育の概念

②その他



我が国は子どもを「人格を有する権利主体」と認め、かつ、子育てを「次世代育成のための社会全体の問題」ととらえる意識が希薄

急速な少子高齢化  
⇒子どもの健全な育成を保障する社会的施策の立ち遅れ  
⇒産みたくてにくい家庭・職場・社会環境（妊娠・出産や子育ての環境悪化がすすむ）  
・人間関係の希薄化 / 孤独感!!  
・低出生体重児10%!!（先進国では特異現象）  
・群れて遊ぶ機会  
・相対的貧困率15%!! 等々

地域格差  
⇒保健・医療分野にも多大な影響

<<成育基本法(理念法)制定の提案>>  
＜国の責務、地方公共団体の責務、医師等の責務を明確化＞  
＜関連施策との有機的連携と配慮の基に総合的に推進されることを基本理念とする＞  
⇒妊娠・出産・子育てが地域社会の中で安心して行われ、次世代をのみ出す健康な成人に育つことを保障する  
⇒現システムを有機的に連携させ、支援の薄い部分を補う施策の創設

妊婦 → 妊婦

胎児期 新生児期 乳幼児期 学童期 思春期 成人期

・地域保健法 ・予防接種法 ・母子保健法 ・学校保健安全法 ・健康増進法  
・児童福祉法 ・児童虐待防止法 ・子ども・子育て支援法 ・次世代育成支援対策推進法  
・子ども・若者育成支援推進法 等々

成育過程にある者への保健・医療・福祉に係る支援は縦割りで連続性がなく、有機的連携が取れていない

- ・母子健康手帳 歯科健診は100%ではない
- ・市町村において、歯科の相談窓口がわからないところもある
- ・保健師の育成 業務分担制ではなく地域担当制へ
- ・まずは、地域連携よりも医療間連携のほうがりやすいのでは
- ・二人主治医制の推進
- ・個食、孤食の問題
- ・う蝕と歯周病にプラス口腔機能

「多職種による母子保健の推進～歯科からの提案～」と題してフォーラムが行われましたが、提案と言うよりは、やっと第1歩を踏み出したと感じました。また、平成28年に母子保健法改正で位置づけられた子育て世代包括支援センターは、地域市町村によっても異なるが、マネジメントを考えると、保健師等を配置してきめ細かな相談支

援等を行うことにより地域における子育て世代の「安心感」を醸成することが主な目的とのことでした。現在のところ、このセンターに歯科の参画はあまりなく、私たち歯科関係者も多職種に理解されるよう歯科ができることを示し、センターの概要ももっと知るなど、アンテナを高くする必要があったと感じました。

# 岩手県歯科医師会主催第13回 「8020健康フェスタ」に参加して

地域保健委員会 深谷 聖

6月3日（日）岩手県歯科医師会館において、第13回8020健康フェスタに参加してきました。6月2日、3日と盛岡市では東北絆祭りが開催されており、最高気温が30℃とお祭りには最高の天候でしたが、岩手県歯科医師会館も沢山の参加者で賑わいました。

師会地域保健担当の歯科医師が熱心に来場者に対応していたのが印象的でした。



朝10時から岩手県歯科医師会館で健康フェスタが開始されました。まず私は、佐藤保岩手県歯科医師会長や地域保健担当常務理事である前川洋先生にご挨拶し、10時30分から5階8020大ホールにて、米村でんじろうサイエンスプロダクション所属の海老谷浩氏のサイエンスショーに参加しました。親子連れや歯科衛生士学校の学生ら沢山の参加者で、サイエンスショーを楽しみました。

体験学習コーナー（4階歯科診療センター）やおねえさんとお口の健康を学ぼう（4階第3会議室）も見学させていただきました。岩手県歯科医



13時30分からはいよいよ三ヶ田礼一氏（アルベールビルオリンピック金メダリスト）の「挑戦してみよう岩手から世界へ～夢を叶えるために～」の特別講演です。三ヶ田礼一氏は、12時前に30℃の炎天下の中、自転車で歯科医師会館まで来られました。

岩手医科大学歯学部先輩の鈴木卓哉学術スポーツ歯科担当常務理事の特別の計らいで、岩手県歯科医師会長室で昼食を取りながら、三ヶ田礼一氏と懇談することができました。三ヶ田礼一氏の金メダルを見せていただき、金メダリスト本人に首にかけていただき、一緒に写真を撮らせていただきました。

余談ですが、まだ面識の無かった大黒英貴岩手県歯科医師会副会長に初対面でお会いした時、私を見て、「三ヶ田さんのボディガードの方ですか？」と言われてしまいました（笑）。



さて、三ヶ田礼一氏の講演が始まりました。三ヶ田氏が勤務している岩手県体育協会で、小学4年生、5年生を対象に「いわてスーパーキッズ」への取り組みを11年前から実施しており、岩手スーパーキッズに選出された児童が今年2月に韓国で行われたピョンチャンでメダルを取るなど、素晴らしい実績が出ている話や最後に夢を叶えるためには「最後までやりきること」で講演を締め、とても素晴らしい講演でした。

講演会終了後に、参加された皆さんに金メダルを披露していた三ヶ田氏の謙虚さが印象的でした。

来年は茨城国体、ラグビーワールドカップ日本開催、再来年には東京オリンピックとスポーツイベントが目白押しでございますので、是非三ヶ田礼一氏に茨城県でも特別講演をお願いしたいと思います。思う次第であります。



## 第51回関東地区歯科医師親善ゴルフ大会 茨城県団体戦健闘して準優勝なる

大会実行委員長 柴原 宏一郎

今年も恒例の関プロゴルフ大会が、5月31日（木）茨城県の当番で、江戸崎カントリークラブ東コースで1都7県157名の歯科医師が参加し開催されました。江戸崎カントリークラブは、開場50年余りの名門コースで、東コースと南コースの36ホールあるうち、今回はメインコースの東コースのみを使用しました。松林でセパレートされ、比較的平坦で、ミドルホールの距離がたっぷりある風格あるコースでした。

8年おきに廻ってくる当番県として、大会成功に向け2年前から準備委員会を立ち上げ、開催ゴルフ場の選定、開催日の決定から検討を重ねました。圏央道の開通など交通の便の良さ、ゴルフ場との交渉に融通のきくメンバーがいることがポイントとなりました。一年前からは実行委員会に格上げし、主に6名のIDC会員で準備しました。競技方法（エントリー数、シニアと一般のすみ分け、使用ティ、スコア集計、練習ボール等）の決定、大会要項の印刷発送、参加賞、上位入賞者、キャディ謝礼品の選定、表彰式と懇親会の式次第、ウェイティングの飲み物・つまみ品の準備、当日の受付担当などでしたが、IDC会員、県歯厚生委員の先生方にもご協力をいただき、チームワークよく無事終えることができました。

前日夜は雨、当日も天気予報では曇りのち雨、落雷の可能性もとのことで大変心配しましたが、終日雨も風もなく好スコアが続出しました。70台

でラウンドした選手が実に24名、ベスグロは埼玉県の選手で72ストロークでした。

今年の各県対抗戦は、シニア枠（60歳以上）8名エントリーのうちグロス上位4名、一般枠（年齢制限なし）10名エントリーのうちグロス上位6名ずつの計10名の合計で争われました。今年も優勝は埼玉県でした（ここ数年連続で優勝）。10名の合計が700台の優勝は久しぶりかと思います。前年の烏山城CCは900台でした。ラウンド時間がかかりすぎないように、やや易しめのピン位置等をゴルフ場にお願ひしました。本県は地元開催の力を発揮したか、8年前の宍戸ヒルズ以来の準優勝を勝ち取りました（2位が最高でいまだ残念ながら優勝は一度もなし）。



個人戦は全員を対象に新ペリア方式で集計され、上位30位までとBB賞、10位ごとの飛び賞とBM賞レディス賞の選手が表彰されました。本県では、5位に荒野先生、6位に色川敦士先生、7位に徳永先生、19位に林先生、22位に米川先生、28位に草野先生が入賞されました。

今回の大会には、茨城県歯科医師会から助成金をいただき、また森永会長からは会長賞の提供もいただき感謝申し上げます。会長賞は第51回ということで51位の選手に、増本厚生担当理事より授与されました。

来年は千葉県の当番で、5月30日（木）鶴舞CCで開催予定です。

最近ではゴルフ人口の減少、プレー者の高齢化の問題もありますが、毎年名門コースで開催されるこの大会の参加を楽しみにしている関東地区の先生方も多いので、継続されることを望みます。また茨歯会厚生部の事業の一つになっておりますので、会員各位のご協力を切にお願い申し上げます。



## 成績表

### 団体戦 シニア枠上位4名一般枠上位6名の合計

|    |      |          |
|----|------|----------|
| 1位 | 埼玉県  | 788ストローク |
| 2位 | 茨城県  | 797ストローク |
| 3位 | 栃木県  | 808ストローク |
| 4位 | 神奈川県 | 817ストローク |
| 5位 | 東京都  | 819ストローク |
| 6位 | 千葉県  | 824ストローク |
| 7位 | 群馬県  | 835ストローク |
| 8位 | 山梨県  | 857ストローク |

### 団体戦に貢献した本県選手のスコア

#### シニア枠

|            |    |
|------------|----|
| 徳永一充（つくば）  | 77 |
| 高野俊行（土浦石岡） | 79 |
| 小川修二（県南）   | 79 |
| 平尾 修（県南）   | 80 |

#### 一般枠

|            |    |
|------------|----|
| 千葉順一（土浦石岡） | 78 |
| 茶園基史（土浦石岡） | 79 |
| 小野瀬弘記（県南）  | 79 |
| 大寄哲也（鹿行）   | 79 |
| 草野廣幸（鹿行）   | 83 |
| 増本章典（日立）   | 84 |



## (公社) 茨城県歯科医師会主催 第1回障害児・者歯科講演会報告

(公社)茨城県歯科医師会 口腔センター水戸

関口 浩、村居 幸夫、征矢 亘、森永 和男

平成30年6月10日(日)(公社)茨城県歯科医師会主催の第1回障害児・者歯科講演会が開催されました。今回は「地域で診る障害児・者の食べる機能の障害」と題して、弘中祥司先生(昭和大学歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔衛生学部門教授)にご講演いただきました。本講演会には歯科関係者以外に障害児・者に携わる多職種の方および患者家族など116名の受講者の皆様にご来場いただき、熱心に拝聴されていました。講演終了後には参加者と活発な質疑応答が交わされ、盛会のうちに終了しました。本講演会について、アンケート結果をもとにご報告します。



講師 弘中祥司先生

### 講演内容の要旨

食べる飲み込む機能は、生後に学習して獲得す

る機能であり、プログラミングされた機能ではありません。生後、授乳期～離乳期～自食期へと、食行動(自発的行動・遊び)と食環境(養育者・場所)の相互作用によって学習される機能です。したがって、食べる機能は「食べること」によってより効率よく習熟されます。

摂食嚥下機能は、出生後からすぐに生育環境・食環境や口腔の感覚-運動体験をとおして、新たな機能を獲得しながら発達する運動機能でもあります。したがって、摂食嚥下機能の発達は、他の全身の発達と同様に感覚運動系の発達をなすといわれており、感覚刺激(主として触圧覚)に対して引き出される種々の運動・動作を食べる目的に合った動作(機能)に統合させることで営まれる随意運動です。摂食嚥下機能に関わる機能の多くは、乳幼児期に獲得されます。同時に口腔・咽頭部の形態の成長が著しい時期であり、形態的な成長変化とともに機能発達がなされるが、反対にその学習時期に負の因子が加わる事によって、障害児・者の摂食嚥下機能障害は発生します。

また我々障害者歯科の分野では齲蝕の減少に伴い、障害児の治療は、食支援に注目が集まっています。食支援や「食育」という言葉は耳にする事が多いのですが、園や学校歯科医でない限り直接関わることは少なく、歯科医療関係者の関わりがいまひとつ理解しにくいと思われている方も多い

と思います。現在、口腔機能発達不全症という新病名を日本歯科医師会・日本歯科医学会が導入しており、これからの歯科医療に新たな考え方が浸透されることを楽しみにしています。

今回は、私どもの教室で取り組んでいる研究・臨床を通じて、支援の在り方を皆様と考えたいと思います。

### アンケート集計結果

受講された方々には所定のアンケート用紙に無記名で記載をお願いし、会終了後に回収しました。アンケートを集計し、その結果をまとめたので報告します。

#### 1) 受講者数とアンケート回収率

受講者数は116名であり、アンケート提出者数は90名で回収率は77.6%でした。

#### 2) 性別・年齢

性別は女性84名（93.3%）、男性6名（6.7%）でした。年齢は40歳代が23名（25.6%）と最も多く、次いで、20歳代が22名（24.4%）、50歳代が21名（23.3%）、30歳代18名（20.0%）、60歳代6名（6.7%）、の順でした。

#### 3) 職種

受講者の職種の一覧を表1に示します。

#### 4) 受講者の評価

講演内容に対する受講者の評価を表2に示します。

「非常に良かった」が20名（66.7%）で、7割近くを占めていました。

### 受講者の感想・意見

- ・障害のある方だけでなく、健康な方についての話もあり、0歳から食べる機能について考えないといけないなど自分が思っていた間違った考えがあったので、とても勉強になりました。
- ・障害児だけでなく摂食に問題がある子供の参考になり大変勉強になりました。

表1 受講者の職種

| 職種        | 名 (%)     |
|-----------|-----------|
| 保育士・保育助手  | 17 (20.2) |
| 歯科衛生士     | 16 (19.0) |
| 保育教諭      | 7 ( 8.3)  |
| 生活支援員など   | 7 ( 8.3)  |
| 看護師       | 7 ( 8.3)  |
| 歯科医師      | 6 ( 7.1)  |
| 管理栄養士・栄養士 | 6 ( 7.1)  |
| 教諭        | 3 ( 3.6)  |
| 施設職員      | 3 ( 3.6)  |
| 保護者       | 3 ( 3.6)  |
| 介護福祉士     | 2 ( 2.4)  |
| 保健師       | 2 ( 2.4)  |
| 栄養教諭      | 1 ( 1.2)  |
| 調理師       | 1 ( 1.2)  |
| 言語聴覚士     | 1 ( 1.2)  |
| 理学療法士     | 1 ( 1.2)  |
| 行政関係      | 1 ( 1.2)  |
| 計         | 84 (100)  |

表2 受講者による評価

| 評価      | 名 (%)     |
|---------|-----------|
| 非常に良かった | 73 (81.1) |
| 良かった    | 17 (18.9) |
| 計       | 90 (100)  |

※無記入者6名を除く

- ・通園施設に勤務しています。具体的に年齢や支援方法等伝えていただき、すぐに実践できることが多かったので、明日からの食事が楽しみになりました。
- ・貴重なご講演を聞く事が出来、大変勉強になりました。適切な発達時期（段階）に合わせた指導や練習が重要であると改めて感じました。

- ・具体的でわかりやすく良かった。口の中の温度変化で食べさせることや、氷の上のプリンと砂の上のプリンの様子、アスペルガーの子のミルク～食事等…いろいろ良かったです。
- ・年齢別にどんなことに気を付けるかよく分かりました。今子どもにしてあげられること（食内容や訓練）を頑張ります。
- ・高齢者とは違い子どもは発達にともない口腔内の状況が変化し、摂食の状況（問題）も変化することが勉強になり、また、それに対応することの難しさも感じました。
- ・口の中の発達するタイミングと離乳食の関連性について大切なことが分かりました。障害の有無に関わらず、発達に合わせてのかかわり方をさらに学びたいと思います。
- ・茨城県でも障害を持つ子供に早くから摂食指導を受けられるシステムが必要と感じた。医師や病院との連携が必要だと思う。
- ・11ヶ月の子全員を見る食べ方相談はとて面白いアイデアだと思う。



参加者との質疑応答

長年にわたる臨床経験と知識および研究成果にもとづいた弘中先生の講演は、とても説得力があり、かつ有益なものでした。摂食に問題のある子ども達に対する対応に悩む保護者や医療、支援の現場にいる施設の職員方にとって、今回の講習会は種々な問題・疑問の解決に役立つ内容であったと思います。

今後も受講者の方々の要望を考慮して実りある講演会を企画していきたいと考えています。

# 専門学校 の だより

## 【親睦会】

### — 歯科技工士科 —

5月11日（金）水戸市のグリーンボウルにて歯科技工士科の学生主催による親睦会が行われました。1学年9名、2学年11名、専任教員3名が参加し、ボウリング大会という形での開催となりました。

個人及びチームでの上位者には景品も出るということで、それぞれが気合十分でゲームに臨みました。



ストライクとれるかな？



ゲーム後に全員で記念撮影

普段は授業が忙しく、学年間の交流があまりない中で、この日はスポーツをしながら楽しく会話もでき、ピンを倒すたびに歓声上がるなど、日頃の授業でのストレスを解消しながら親睦が深められたようです。

あっという間の時間でしたが、この日は授業から解放され、楽しいひとときを過ごせました。体と心を少しリフレッシュできたので、また新たな気持ちで授業に取り組めるのではないかと思います。

（文責 渡邊）



## 第18回日本スポーツ・健康づくり歯学協議会 茨城県開催報告 幹事会及び協議会・懇親会

いばらきスポーツ・健康づくり歯学協議会プロジェクトチーム委員会 委員長

荻野 義重

平成30年5月19日（土）午後3時より水戸市「ホテルレイクビュー水戸」において、第18回日本スポーツ・健康づくり歯学協議会及び幹事会が開催されましたので、ご報告いたします。

日本スポーツ・健康づくり歯学協議会は、スポーツ歯科の全国大会として次年度国民体育大会が開催される都道府県が当番県として持ち回りで開催しております。協議会の事務局は岩手県歯科医師会が引き受けており、当番県と連携し、資料等を作成していただいております。

まず、午後3時からの幹事会では、次に行われる協議会についての確認事項などが話し合われました。協議会は午後3時20分より同会場にて行われました。司会進行は、協議会幹事長の鈴木卓哉先生（岩手県歯科医師会）が行い、開会の辞を協議会副会長の西脇孝彦先生（岐阜県歯科医師会）から、挨拶は協議会会長の杉山義祥先生（神奈川県歯科医師会）と協議会大会長で当番県会長の森永和男先生がそれぞれ行い、来賓挨拶は、日本学校歯科医学会会長の川本強先生、日本スポーツ歯科医学会理事長の安井利一先生からいただきました。

また、福井県歯科医師会からは齋藤愛夫会長、

鹿児島県からは伊地知博史会長にもご出席をいただきました。

今回この協議会に参加した都道府県は41にのぼり、来賓の方々、講演会講師の先生を含めて85名の先生方にご出席をいただきました。

報告として（1）平成29年度日本スポーツ・健康づくり歯学協議会事業報告について、（2）日本スポーツ・健康づくり歯学協議会役員について（3）平成29年度日本スポーツ・健康づくり歯学協議会会計収入収支決算について（4）第18回日本スポーツ・健康づくり歯学協議会懇親会並びに（一社）日本スポーツ歯科医学会 認定MG講習（公社）茨城県歯科医師会マウスガード製作講習会について（5）第19回日本スポーツ・健康づくり歯学協議会開催県について それぞれ報告がなされました。

（5）の次期開催県については「いばらき国体」の次期開催県の鹿児島県歯科医師会にお願いすることになりました。

次に国体報告ということで、昨年度国体開催県の愛媛県歯科医師会理事 稲田雅仁先生より「笑顔つなぐ 愛媛国体における県歯科医師会の取り

組み」についての報告がなされました。

続いて、五輪報告として「平昌オリンピック報告」について杉山義祥先生より報告がなされました。大会中は、救護所、ハイパフォーマンス・サポートセンター等、東京オリンピック・パラリンピックに繋がる施設など歯科医師がオリンピックに関わる事が多くなり、前回のリオオリンピック・パラリンピック以上のマウスガードの提供が予想されることなどが紹介されました。

議事に移り、次期役員についてということで、岩手県歯科医師会顧問 箱崎守男先生より次期会長も現会長の杉山義祥先生を選出する提案があり、杉山先生からも承諾が得られたため、引き続き杉山義祥先生が会長を務めることで了承されました。

協議として箱崎守男先生より日本スポーツ・健康づくり歯学協会における今後の在り方について説明がなされ、次期開催県である鹿児島県をもって協議会を一旦終了する旨の発言があり、その後の協議会開催については、今後検討することとなりました。

その後の講演では「日本スポーツ界への貢献を考える」をテーマに日本大学松戸歯学部特任教授川良美佐雄先生が講演されました。選手は力を発揮するとき強くかみしめながら競技を行っているのだろうか？またよく言われているようにスポーツを行っている選手は歯がだめになってしまうのか？等、我々スポーツデンティストも学ばなければいけない内容の講演会でした。

午後6時予定より10分ほどタイムスケジュールが遅れたものの、西脇孝彦先生の閉会の辞にて無事、幹事会・協議会が終了しました。

その後、会場を移し、懇親会が開催されました。森永和男先生、杉山義祥先生よりご挨拶をいただ



き、次期開催県の鹿児島県歯科医師会会長の伊地知博史先生より来年度の開催のお願いの言葉のあとで乾杯に移りました。

今年は、茨城県酒造組合にお願いして、様々な銘柄の「茨城県の地酒」を用意していただくことができ、初めて来県された先生方にもとても好評でした。協議会が若干長引いたにもかかわらず、各県の先生方と交流を図ることができました。貴重な交流の時間も過ぎ、茨城県歯科医師会常務理

事の小林先生より閉会の辞が述べられ、盛況のうちに閉幕となりました。

今回、茨城県歯科医師会が開催となり1年前から準備を進めてきました。準備にあたり茨城県

歯科医師会会長森永先生を始め、理事監事の方々、いばらきスポーツ・健康づくり歯学協議会プロジェクトチーム委員会の先生方、そして何より事務局の川津さん・林さんにはこの場をお借りして改めて感謝いたします。ありがとうございました。

(一社) 日本スポーツ歯科医学会 認定マウスガード講習  
(公社) 茨城県歯科医師会マウスガード製作講習会 報告

## (一社) 日本スポーツ歯科医学会認定 マウスガード製作講習会

いばらきスポーツ・健康づくり歯学協議会プロジェクトチーム委員会 委員長

荻野 義重

平成30年5月20日(日)茨城県歯科医師会技工士科実習室において、(一社)日本スポーツ歯科医学会認定マウスガード(以下、MG)講習(公社)茨城県歯科医師会MG製作講習会が開催されました。

このMG講習会は日本スポーツ歯科医学会認定MG講習会として、かながわスポーツ・健康づくり歯学協議会の先生方をお願いをして、開催が実現しました。現在、茨城県歯科医師会は、日本スポーツ歯科医学会認定の施設基準を満たしていないため、単独開催はできませんが、日本スポーツ・健康づくり歯学協議会会長の杉山義祥先生のお計らいにより実現したものです。

本会では、来年度国体が開催されるにあたり、MGの重要性などをアピールするため、国体強化選手支援事業としてMGの提供を行います。昨年度より「いばらきスポーツデンティスト養成講習



会」を開催し、本年4月1日付けで54名の先生方を第1期「いばらきスポーツデンティスト」として認定いたしました。

そこに日本体育協会公認スポーツデンティストとして県内で認定されている7名(平成30年4月1日現在)と第2期として今年度受講していただく先生方を加えた約70名で、いばらき国体に向けて活動していきます。

今回のMG講習会では、前日にながわスポーツ・健康づくり歯学協会の先生方が咬合器にスプリットキャスト法を行うことで、当日は、MGの作成のみを行えるようにしていただきました。本来この講習会は、ほぼ1日かけてスプリットキャスト法にするまでの手順、咬合器付着とバイトの取り方などを行います。

当日は杉山義祥先生より「平昌オリンピック報告」がなされ、かながわスポーツ・健康づくり歯学協会理事長の嶋村正博先生より本日の講習会の説明と講師の先生方を紹介していただき、実習に移りました。実習はマルチレイヤー（積層法）として行い、講習を受けられた先生方の中にもマルチレイヤーを行っている方もおり、スムーズに実習を終えることが出来ました。最後に嶋村正博先生より修了証が各自に手渡され、予定時間より早く終わることが出来ました。



今回の講習に参加して、本会としても「日本スポーツ歯科医学会認定」の施設基準をクリアし、多くの先生方により良いMGの提供とスポーツ歯学への取り組みを理解していただくよう努めたいと思いました。また、技工士、衛生士の方々も含めこれからのスポーツ歯学の普及に努めて行きます。

# みんなの写真館

Photo  
Gallery



アンネフランクのバラ



千波湖（水戸市のオアシス）



男体山と中禅寺湖



(社) 珂北歯科医師会 柴岡 永子

## みんなの写真館写真募集！

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、ご自宅の古いアルバムに埋もれた写真などをお送り下さい。

1種会員 1,147名  
2種会員 49名  
終身会員 126名  
準会員 5名  
合計 1,327名

## 会員数

平成30年5月31日現在

| 支 部   | 会員数(前月比) |
|-------|----------|
| 日 立   | 118 -1   |
| 珂 北   | 144      |
| 水 戸   | 154      |
| 東西茨城  | 70       |
| 鹿 行   | 103      |
| 土浦石岡  | 174 -1   |
| つ く ば | 123 +1   |
| 県 南   | 179      |
| 県 西   | 154      |
| 西 南   | 103      |
| 準 会 員 | 5 +1     |
| 計     | 1,327 ±0 |



**Ibaraki Dental Association**

公益社団法人 茨城県歯科医師会

## 茨 歯 会 報

発行日 平成 30 年 7 月  
発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和 2 丁目 292 番地  
電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075  
ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>  
E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 渡辺 進  
編集人 柴岡 永子



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。